



9月17日、献穀田御抜式において  
祝辞を述べる栗市長

ごあいさつ

平成 28 年 10 月 6 日

10月に入り、衣替えの時期なのに真夏並みの暑い日が続きました。台風シーズンでもあり、「空振り」になってもいいから自然災害の対策には早めの対応をと考えています。市から、さまざまな形で災害への注意喚起をさせていただくと思いますが、よろしく願いいたします。

9月定例会での提案説明のなかでも、お伝えしましたが、この10月に京都府城陽市と災害応援協定を締結することとなりました。城陽市が大地震などの被害を想定した際、比較的距離のある自治体からの応援体制を整備することで、協定を結ぶ自治体の候補を探していたところ、野々市と城陽のロータリークラブが姉妹クラブとして交流を深めていたことが縁で、このたび締結の運びとなりました。

万が一のときは、互いの応援体制が取れますし、災害に限らず、今後さまざまな交流が両市の間で深められることを期待したいと思います。

補正予算として2億6,356万円の追加をいたしました。この7月に旧県立養護学校跡地に文化交流拠点施設の建設に着手し、図書館や生涯学習施設が来年11月にオープンする予定です。その後、本町の中央公民館、旧役場庁舎一体の整備に入る予定としております。「のいち一番街」の場所も含めての整備ということで、現在の場所からできるだけ近いところでの移転を希望される方がいらっしゃったことから、道路を挟んだ向かいの土地を市が取得することを議会に諮らせていただきました。太平寺地内の「学びの杜ゾーン」と本町地内の「にぎわい交流ゾーン」をあわせた中央地区整備事業をさらに進めたいと思います。

また、8月に開催しました「子ども議会」で児童から要望のあった富陽小学校の遊具整備についての予算措置もさせていただきました。子どもたちが議会や行政のことについて学習したことで、自分たちが提案したことがどのような過程を踏んで具体化されていくのかを知る、またとない機会になると思い、早めに対応させていただきました。さらにこの予算のなかで、どのような遊具を設置すればいいのか、子どもたち自身が考え、選んでもらうこともしていただきたいと思います。

17日に藤平田地内の献穀田の御抜穂式も無事に終わりました。都市化が進むなか、市内の圃場の面積も少なくなってきました。そのようななかで献穀田として選ばれたことをとてもうれしく思っていますが、何よりも献穀者である千田さんご家族の育成への思いや、住宅地の中で周辺の皆さんが温かく見守っていただいたことも含めて、改めて感激いたしました。今月下旬には天皇皇后両陛下への「献納式」が執り行われ、いささか緊張しておりますが、私も出席させていただきます。

北国街道野々市の市や、秋祭り、獅子舞など、市内のいたるところで秋を感じさせる行事が行われます。このような行事に関わり、参加することで自分の住む地域に対する自信や誇りがうまれます。さらには、そこでの地域、人のつながりが野々市を発展させることだと思います。

実りの秋、心も実る季節です。